

昭和56年度歩行指導員養成講習会（第11期）研究レポートから

日本ライトハウスが厚生省の委託を受けて行なっている歩行指導員養成講習会では、課目一つの研究レポートの作成がある。このレポートの課題は各受講生が任意に選択したものであるが、ここにその中から5つのレポートを選んで記載する。

1. 視覚障害児の発達と遊び—カリキュラム作りの一助として—
2. 視覚障害者と人間関係
3. 言語の獲得—音声言語を持たない重複障害について—
4. 視覚障害者の雇用、就労の実態と課題
5. 盲学校における進路指導の現状と課題

1. 視覚障害児の発達と遊び —カリキュラム作りの一助として—

栃木県立こがし学園 青木文子

1. はじめに

日本ライトハウスにおいて、歩行訓練や点字やその他の授業の際、特に生まれつき目の不自由な人の経験不足という話を耳にすることが多かった。同時に、子どもの頃の経験の豊富さが、大切になってくるとも言われた。

施設に入所している子どもたちは、1日のことを施設で過ごしている。施設の果たす役割は、大きいと思われる。

私たちは、子どもたちに、基本的生活習慣の自立とともに、生活（発達）年令に応じた遊びを経験させたりするなかで、視覚には、障害があるけれど、自主性・協調性・社会性のある豊かな人間になってもらいたいという願いをもっている。

そこで、このテーマを選び、こがし学園で行なわれている遊びを分類し、考察し、今後のカリキュラム作りの一助としたいと思った。

2. こがし学園の状況

(1) 園生の状況 S 56.5.1.現在

性別・学生別

区分		計	男	女	備考
計		33	20	13	
高等部	計	9	5	4	
	専攻科	1	0	1	1年生 1名
	普通科	3	3	0	3年生 1名 2岁 2名 2岁 2名
	保健理療科	5	2	3	3年生 1名 2岁 2名 1岁 2名
中学生		12	7	5	3年生 2名 2岁 7名 1岁 3名
小学生		12	8	4	6年生 4名 5岁 3名 4岁 3名 3岁 2名

障害程度

区分	計	男	女
計	33	20	13
全盲	11	7	4
準盲	2	1	1
弱視	20	12	8

全盲 視力が皆無
 0.01~0.02 (1mの範囲の明暗しか判断できない)
 準盲 0.02~0.03
 物体の有無だけ判別できる
 弱視 0.04以上
 広範囲に渡っている

(2) 園生眼疾状況 S 56.6.1.現在

区分	疾患名	計	性別		区分	疾患名	計	性別	
			男	女				男	女
全盲	グリオーム	1	1		弱視	小眼球	4	3	1
	小児眼癌	1		1		脈絡膜萎縮	1	1	
	癒着性角膜白斑	1		1		小眼球白内障	1	1	
	小眼球	2	2			視神経萎縮	5	4	1
	牛眼	3	3			網膜色素変性	3	2	1
	牛眼網膜剝離	1	1			緑内障視神経萎縮	1		1
準盲	未熟児網膜症	2		2		弱視	2		2
	視神経萎縮	1	1			強度近視	2	1	1
	脳皮質盲疑	1		1		白児眼弱視	1		1
合						計	33	20	13

(3) 日課表

曜日	午前				午後															
	六、三〇	七、三〇	八、二〇	九、三〇	〇、四〇	一、三〇	三、三〇	四、〇〇	五、三〇	六、〇〇	七、〇〇	八、〇〇	九、三〇	一〇、〇〇						
月～金	起	休	食	掲	登	引	低	自	お	高	低	掲	食	入	中	自	低	就	消	
	床	操	事	除	校	離	学年下校	自由時間	や	学年下校	学習	除	事	浴	年	・	高	習時間	就寝	寝灯
土	平	日	同	じ	全員	食	自由時間	お	や	自	由時間	平	同	じ	自	時	間	就	消	
	に	に	に	に	下校	事	つ	や	つ	や	つ	に	に	浴	年	に	に	寝	灯	
日	起	掃	食	自	食	自						平	同					消		
	床	除	事	由	時間	事						日	に	浴	年	に	に	灯		

(4) 職員 25名

園長 1名 園長補佐 1名

庶務課 課長、主事、技師（運転手）、技術員兼公仕各 1 名。

指導課 課長、保健婦、主事（児童指導員）各 1 名、保母 16 名。

3. 学園での遊びの実際

現在、学園で年間を通じて、どのような遊びをしているかを年令別と遊び毎に分類してみた。

(1) 年令別分類

重複児 散歩、固定遊具、砂遊び、プール、マラソン、へびおに、かくれんぼ、マット遊び、ボーリング、ままごと、ボール転がし、ぞうきんがけ、積木、組木、お馬さんごっこ、買物ごっこ、キャタピラごっこ、かごめかごめ、花いちもんめ、あぶくたった、竹踏スタイリー、うさぎ跳び、かけっこ、太鼓たたき、ランニングマシーン、じゃんけん、室内スベリ台、腹筋、背筋、電車ごっこ、いも虫ごろごろ、だるまさん転んだよ、電話ごっこ、手押し車、手遊び、ブロック、粘土、指先運動、色分け、リズム運動、歌、楽器演奏、本の読み聞かせ、しりとり、飛行機、肩車、高い高い、は虫類ごっこ、魚ごっこ、グルグル回し、トランポリン。

小学生 散歩、固定遊具、砂遊び、プール、ローラースケート、自転車、野球、

なわとび、マラソン、たこあげ、ブーメラン、竹馬、虫とり、飛び箱、
ヘビおに、かくれんぼ、ボーリング、積木、組木、ままごと、椅子とり、
じゃんけん遊び、室内スベリ台、電車ごっこ、だるまさん転んだよ、電話
ごっこ、ブロック、粘土、折紙、ラジオ、テープ、レコード、テレビ、
歌、楽器演奏、読書、読み聞かせ、プラモデル、ミニカー、あやとり、
図画工作、しりとり、トランポリン。

中高生 散歩、プール、ローラースケート、自転車、バトミントン、野球、卓球、
盲人バレー、なわとび、マラソン、ブーメラン、エキスパンダー、竹馬、
鉄アレー、トランポリン、飛び箱、円陣バス、ラジオ、レコード、編物、
テレビ、読書、プラモデル、オセロ、トランプ、トランシーパー。

(2) 遊び別分類

体をつかう遊び	ぞうきんがけ、お馬さんごっこ、キャタピラごっこ、スタイルー、うさぎとび、竹踏み、腹筋、ランニングマシーン、背筋、いも虫ごろごろ、トランポリン、手押し車、飛行機、自転車、ぐるぐる回し、は虫類ごっこ、三輪車、なわとび、飛び箱、散歩、固定遊具（ブランコ、スベリ台、鉄棒、シーソー、雲梯、チェーンネットクライム、築山、ジャングルジム、円すいブランコ、タイヤ）、バトミントン、プール、マラソン、マット遊び、ローラースケート、卓球。
手・指をつかう遊び	砂遊び、ボーリング、積木、ボール転がし、組木、じゃんけん遊び、図画工作、編物、ブロック、粘土、ブーメラン、プラモデル、エキスパンダー、鉄アレー。
集団的な遊び	へびおに、かくれんぼ、野球、ままごと、電話ごっこ、かごめかごめ、椅子とり、買物ごっこ、あぶくたった、円陣バス、電車ごっこ、だるまさんころんだよ、花いちもんめ、盲人バレー。
伝承的な遊び	草花摘み、木の実拾い、折紙、落葉拾い、たこあげ、竹馬、笹舟、あやとり。
自然情操	太陽、雨、風、雷、散歩、虫とり、海水浴、川遊び、草花、野菜栽培。うたを歌う、楽器演奏、リズム運動、本の読み聞かせ、読書、レコード鑑賞。

遊びの分類は以上である。

小学生高学年、中高生の実態を考える時、平日は下校してくるのが3時30分頃であり、小学生の場合、4時から学習時間になっているので、その短かい時間内で、園庭で遊ぶ。夏期は、日没が遅いので、夕食後から暗くなるまで外で遊ぶことが多

い。

中高生になると、学校でクラブ活動をしてくる子どもは別として、下校後、洗濯やラジオ、テレビ鑑賞や雑談をしている子が多い。平日の夜は、小学生高学年、中高生は、テレビ鑑賞が主である。

4. 発達と遊び

重複児は、健康な子どもが育っていくすじみちを時間をかけて、ゆっくりゆっくり、発達していくものである。働きかけをより多く必要とする子どもたちである。

入園当時は、哺乳びんで寝ながら牛乳、ジュースを飲み、ことばもほとんどしゃべらず、おぶわれていたことが長くて、あまり歩いたこともない子が、規則正しい学園の日課の中で、毎日の散歩、体を揺り動かす遊び、話しかけ等のとりくみをくりかえすことにより、今では、体も大きく、たくましくなり、自分から要求語を言えるようになり（例、「先生目薬つけてちょうだい」）、食事も茶碗、皿をもってスプーンで食べられ、コップで水を飲み、自分から「○○ちゃん、握手してちょうだい。」と言い、職員や子どもたちに、積極的に握手を求めて、人とのかかわりをもったり、また、散歩では、重複児のグループと一緒に行動できるように、変わってきてている。

他の重複の子どもも、できないことができるようになってきているし、自分の殻の中に閉じこもっていたような子どもが、他児に興味をもってかかわっていくし、職員や大きい子が、その子に働きかけると、ことばはでないけれど声を出して笑ったりするようになってきている。また、園長訓話などで、皆が集まっている時、5分でもじっとして立っていられず動き回り、室内スベリ台に執着していた子どもが、今では、皆と同じ時間、おとなしく立つことができるようになってきている。

このように、規則正しい生活習慣と、子どもの体を動かし、手をつかわせるなどいろいろなとりくみをしてきた中で子どもたちは少しづつ、かわってきている。そのの中から散歩をとりあげて、その実態をのべてみたい。

(1) 重複児、小学生グループの散歩の実際

①時間

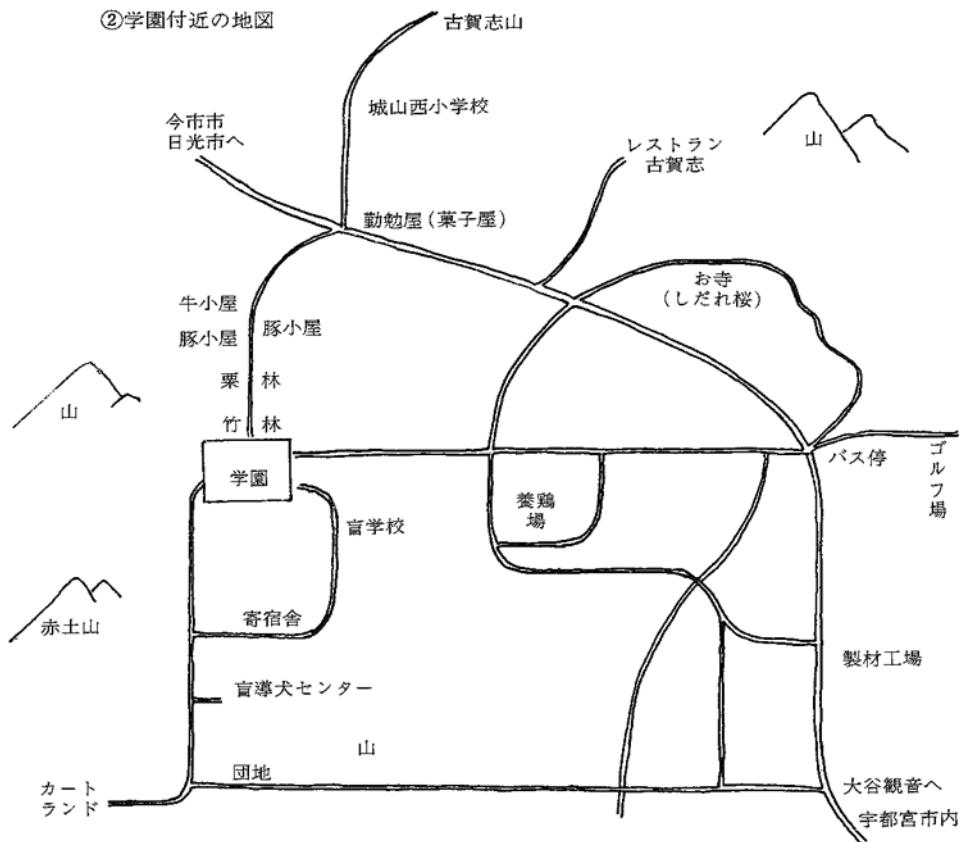
平 日 P.M 1:30(～2:00)～3:00……1時間～1時間半

土曜日 タ 2:00～4:00(～5:00)……2～3時間

日曜日 A.M 10:00 ～ 12:00……2時間

タ P.M 2:00 ～ 4:00……2時間

②学園付近の地図



③コース

◎平日 約1時間～1時間半

重複児のグループ

- | | |
|--------------------|--------------------------|
| E.O (10才・小4) 全盲(女) | 保母と手をつなぐ |
| H.T (9才・小3) 全盲(男) | 〃 |
| Y.Y (12才・小6) 全盲(男) | 保母との手と手の間にタイヤチューブを握ってつなぐ |
| Y.U (11才・小6) 全盲(男) | 一人で歩ける |
| M.S (16才・中1) 全盲(女) | 〃 |

○学園→バス停→お寺→学園

○学園→盲導犬センター→盲学校の校庭→学園

○学園→竹林・栗林→豚小屋・牛小屋→学園

○学園→養鶏場→バス停→学園

○学園→バス停→ゴルフ場入口→学園

◎土・日曜日 約2時間

重複児+小学生グループ

K.K 小4 全盲(女) I.O 小5 弱視(男)
K.T 小5 弱視(男) H.K 小6 弱視(男)
M.A 小6 全盲(男) K.G 小6 弱視(男)
T.T 中2 弱視(男)(重複)

2人ずつ手引きで行く。

○学園→竹林・栗林→豚・牛小屋→勤勉屋(菓子屋)→城山西小学校→学園

○学園→盲導犬センター→カートランド→学園

○学園→古賀志レストラン→学園

○学園→竹林・栗林→豚・牛小屋→勤勉屋→古賀志山→学園

○学園→大谷観音(片道バス)

以上が、主な散歩コースであり、その日によって、いろいろ変えたり、また、メンバーもかわる。朝食前に、ラジオ体操をした後、校庭まで歩いたり、夏は、日没後までバス停ぐらいまで歩く。

歩きながら話をしたり、歌をうたったり、バス停の所で休憩して、道路を通る車の車種を数えたり、どちらからきて、どっちへ行くかあてっこしたり、(右・左)車の数を数えたりして、「20台通ったら行こう」と促して、次のお寺へ行く。舗装されていない山道を枯れ葉を踏みしめて歩く。お寺でしだれ桜を触ったり、どん栗拾いをしたり、お願い事をしたりして帰ってくる。盲導犬センターへ行った時は、センターに職員がいれば、触らせてもらったり、質問したりする。その帰りは、盲学校の校庭にある固定遊具で遊ぶ。竹林・栗林では、竹の子や栗のイガを触ったり、豚小屋では豚の、牛小屋では牛の鳴き声を聞いたりする。草花を摘んだり、川の音を聞いたりして、鶏小屋につく。養鶏場の雰囲気を感じたり、鶏の鳴き声を聞いたり、産みたての卵を触らせてもらったりする。勤勉屋では、主におやつであるが、買い物をする。自分で買える子は、100円なり200円なり、もらい、それ以内で買う。城山西小学校の校庭の藤棚の下で、買ったおやつを食べて、学園にあるのとは違う種類の固定遊具で遊ぶ。山道を歩く時は、鳥の鳴き声に耳をすまし、カートランドでは、すさまじい勢いで走る車の爆音を聞く。このように自然環境は抜群であるが、音の情報量が少ないのが欠点である。

(2) 散歩(歩行)の意義

『直立と二足歩行と手の働きは人間の大脳を発達させ、言語を人間がつくり出す

ことになった源になる力』であり、『人間が、2本足で歩くことは、自分自身が足を交互に動かして、単に移動するだけでなく、自分の世界を広げ、人格を形成し、精神的な発達を遂げる上で大きなポイントを占めているのである。』と言われる。確かに歩き（体を動かす）、手指を使い、笑えるような楽しい集団の中で子どもは発達していく、今までなかったことばが言えたりするようになる。赤ちゃんも寝ている状態から、生後6～9ヶ月頃、寝返りをし9～13ヶ月ではい、立つことができるようになると共に、有意味の喃語が形成され、13～18ヶ月頃は、立位が確立し、歩行ができる、それと共に始語から一語文を話すようになり、さらに18ヶ月～3才までには、歩行が確立したことばも二語文から、おうむ返しの時期で、3才以降は直立と二足歩行が完成し、対話ができるようになるすじみちを通るといわれる。入所時、おんぶされて歩けなかった子どもも、毎日の散歩などのとりくみの中から、少しずつ歩けるようになり、今では2時間近くも歩き続けられるようになり、それと共に、ことばも話さなかつたのに、今では、「○○センセイ、メグスリ ツケテ チョウダイ」と言えるようになってきている。

また、『人間は身体を動かすことによって全面的発達がうながされるのである。特に盲児の場合は、歩行途上における環境認知はきわめて知的な作業である。』と言われる。E子は、入所時、歩けず、手を使うことを知らず、自傷行為がひどく、足で物をいじっていた状態から7年目の今は、手をつないで2時間の散歩もでき、子ども同士でも手をつなげ、ことばも2語文がつかえるようになっているが、この子が散歩の途中で、オートバイが近づいてくると、「オートバイ、オートバイ キタ」と言ったり、風が吹いてくると、「カゼ ビュー」と言える。はっきり認識している。車好きなU君は、車の音で、『ダンプカー』か『軽トラック』か『普通乗用車』か『バス』か等、車種が聞き分けられる。M子は一人で歩け、道路の端の草むらを踏むと、またアスファルトの中にもどれる。

『人間の全身の随意筋の三分の二が足にある』と言われ、『この筋肉の働きは、脳の興奮を増減させる力を持つ』という。だから、『歩きながらものを考えると、いいちえが出たり』『歩いてきた後は記憶力が高まっている』と言われる。さらに、『足の静脈の中には、押しあげポンプ状に弁がいくつか入っていて、それが足の筋肉の動きによって、押しあげの働きを強め、心臓を補助』するので、『足は、「第二の心臓」ともいわれている血行の仕事』をするので、『全身、特に最も沢山の血液を使用する脳への血液循環をよくする』と言われる。また、『歩くと足の筋肉のみでなく、腹筋も強くなり』『腹筋が強くなると、胃・腸の壁を形成している内臓筋が強くなるので、胃・腸がじょうぶになり』その結果、『一日十分に歩行をすると、その運動刺激によつて、夜眠っている時の腸の働きがよくなり、しっかり歩く人には、便秘は生じない』ともいわれている。重複児と職員の『互いの情緒安定にも大変役立った』とも言われる。

散歩は夏でも冬でも行なっているが、歩いているうちに、ボカボカと暖まってくれし、夏は汗をかくけれど、そうかいな気分になり、自律神経も鍛えられると思う。

5. 問題点

生活習慣の自立している小学生・中高生たちと、一緒に遊んだり、話をしたりすることがなかなかできないでいる。どうしても手のかかる重複児の方へいってしまう。意識して接しないといけないと反省するし、職員がもう少しいたらとも思う。学園に小学6年生（普通）は3人いるが、1人が全盲あと2人が弱視で、仲間外れになってしまい、全盲の子がうろうろしていることがあり、考えなければならぬことである。

また、人数が少なく、子ども同士、集団がくみにくいという状況もある。

さらに、私たちが小さかった頃、近所のお兄さんやお姉さんに遊びを教えてもらったように、特に盲児の場合、私たちが遊びを教え、それによって、子どもが自ら遊べることができるようにしなければならない。それには、盲児のための遊びをもっと研究しなければならないと思う。また、おもしろそうだなあ、遊びたいなあという要求が出るよう、私たち大人が、本気になって、楽しく遊ばなくてはならないと思う。

6. 今後の課題

今後の散歩のとりくみとして、今までよりもっと盲児のためになる散歩にしようと思う。例えば、学園から勤勉屋（菓子屋）まで行くのに、今まで「勤勉屋へ行こう」ということばかりだったけれど、「北の方にある勤勉屋へ行こう」等、方角なども意識的にいれたり、「学園からバス停までと、学園から勤勉屋まではどっちが速いか？」と質問をしたり、広い道路に出た時の感じを質問したり、バス停で車をあてっこする時、車が自分の体に対してどういう向きで走っているかをわからせたり、勤勉屋前の信号を青になったからただ渡らせるのではなくて、信号や交差点のことをわからせたり、豚小屋・牛小屋を経て勤勉屋に行く時、川の音が左から右へ変化して聞こえてくるのに気づかせたり、日なたや日陰についてもきづかせたい。また、スベリ台で遊ぶ時、上に登った時と下にすべりおりた時に、上と下の関係・違いをわからせたり、マット運動で前転・後転する時、前・後ろのことわからせたい。

『3. の遊びの分類』の中で、『自然』の中に、『地平線、星、月、地球』のことを入れたり、『手指をつかう遊び』の中に、顔のことが出てくる歌をうたいながら、指で鼻やら口を触ってわからせたり、『集団遊び』のごっこ遊びの中で、お人形さんをつかって体の部位についてわからせたり、入浴時に、部位を言いながら洗ったり、『伝

承的な遊びの中に、お手玉、紙ヒコーキ、竹とんぼ等、自分の手で作りそれで遊ばせたい。

最後に、全盲児にも弱視児にも、いろんな経験をさせて、それへの説明も忘れる事なく、その領域を広げて行きたいと思う。

それには、盲児のための、季節毎のきめのこまかな、豊富な遊びのカリキュラム作りが必要であると思う。児童憲章でいわれる『よい国民として、人類の平和と文化に貢献するよう』な子どもたちになってもらいたい為にも。

参考文献

- 『発達障害児保育実践事例集』 宮下俊彦・石井哲夫著 第一法規
- 『目の見えぬ子の世界』 草島時介著 明治図書
- 『盲幼児の歩行能力の発達とその指導』 盲幼児発達指導研究会
- 『盲精薄児の指導』 田ヶ谷雅夫著 明治図書
- 『子育てのみちすじ』 河添邦俊著 ミネルヴァ書房
- 『障害児の発達と遊び』 河添邦俊・長原光児著 ぶどう社
- 『盲児の白杖使用前の歩行と環境把握』 ミシガン盲学校編
- 日本ライトハウス職業・生活訓練センター訳